尊敬関連感情概念の階層的意味構造の再検討

武藤世良

(東京大学大学院教育学研究科・日本学術振興会)

Key words: respect, prototype approach, emotion words

目 的

近年、感情としての尊敬に注目が集まっている(蔵永・樋口, 2014; 武藤, 2014)。武藤(2014)は、日本語の尊敬に関わる語彙の多さに着目し、尊敬に関わる感情を「尊敬関連感情」と捉えた。そして、感情概念の階層構造を探るプロトタイプ・アプローチ(Shaver, Schwartz, Kirson, & O' Connor, 1987)を尊敬関連語 18 語に適用した。その結果、青年期後期の大学生・大学院生では、尊敬関連感情概念の最も抽象的な上位カテゴリーに、特定の優れた人物に対して保持される「人物焦点尊敬・感情的態度」と、特定の優れた行為に対する一過性の「行為焦点尊敬・感情状態」の二つがあった。また、その下位の基本カテゴリーとして、「人物焦点尊敬・感情的態度」には「敬愛」、「心酔」、「尊重」、「畏怖」があり、「行為焦点尊敬・感情状態」には「感心」、「驚嘆」があった。尊敬という言葉自体は「敬愛」に含まれたことから、大学(院)生にとって、尊敬は典型的には感情的態度であり、「敬愛」が尊敬のプロトタイプの情感である可能性が示唆されている。

しかし、武藤(2014)の知見が日本人全体に一般化可能なものなのか、それとも大学生に特異的なものなのかは明らかでない。また、尊敬関連語がそもそも感情語として捉えられているのかも検討されていない。このように、「尊敬とは何か」に関して十分な知見が集積されているとはいえない。そこで、本研究では、武藤(2014)同様、尊敬のプロトタイプ(典型)的意味に着目し、尊敬関連感情の階層的意味構造に関して、対象者を幅広い成人サンプルに拡大して再検討する。また、尊敬関連語の感情語としてのプロトタイプ性を検討する。

方 法

■参加者と手続き: 2015 年 2 月に、楽天リサーチ株式会社のインターネットリサーチを利用し、Web 上で調査を行った。有効回答者は、日本全国の 798 名(男性 377 名、女性 421 名、平均年齢 46.6 歳($SD = 15.3$, レンジ: 20—79))であった。

■質問紙: ①感情語としてのプロトタイプ性評価: 武藤(2014)の尊敬関連語 18 語と他の言葉 12 語(愛, 甘え, 怒り, 感謝, 軽蔑, 謙遜, 親しみ, 知性, 妬み, 恥, ふれあい, 誇り)の計 30 語に対して、「あなたは、以下の言葉のそれぞれが、感情を表す言葉だとどのくらい思いますか」と尋ね、「感情を表す言葉ではないと思う」(1 点)から「感情を表す言葉だと思う」(5 点)の 5 件法で評定を求めた。なお、意味のわからない語がある場合には、「言葉の意味がわからない」を選択するよう教示した。

②尊敬関連語の対比較: 武藤(2014)の尊敬関連語 18 語の対比較をほぼ同じ手続きで実施した。「あなたは、以下の組になった言葉の意味が互いにどれくらい似ていると思いますか」と尋ね、18 語 153 対の対比較評定を「全然似ていないと思う」(1 点)から「とてもよく似ていると思う」(5 点)の 5 件法で求めた。意味のわからない語の含まれる対については、「左の言葉の意味がわからない」、「右の言葉の意味がわからない」、「両方の言葉の意味がわからない」のうち当てはまるものを選ぶように教示した。評定は 17 対ずつ 9 セクションに分けて実施した。提示順序の影響を防ぐため、セクション提示順は参加者ごとに異なり、セクション内の 17 対の提示順も参加者ごとにランダム化した。

結 果

■感情語としてのプロトタイプ性: 尊重以外の尊敬関連語 17 語は、プロトタイプ性評定平均値が全て 3 点(「どちらともいえない」)を上回り、他の言葉と比べても感情語として捉えられている傾向にあった(尊重以外の 17 語の $M = 3.26—4.58$, $SDs = 0.85—1.46$; 尊重の $M = 2.85$, $SD = 1.41$; 他の言葉の $M = 1.78—4.70$, $SDs = 0.76—1.47$; 以上の $n = 665—794$)。ただし、敬慕・畏怖・畏敬の 3 語は有効回答者 15%以上に「言葉の意味がわからない」と指摘されていた。

■尊敬関連感情の階層的意味構造: 武藤(2014)と同様、尊敬関連語 18 語に関して意味のわからない語がなく、類似性評定 153 項目全てに欠損のない者($n = 515$ (有効回答者の 64.5%); 男性 255 名、女性 260 名、平均年齢 49.3 歳($SD = 15.1$, レンジ: 21—79))から得た非類似度に基づく階層的クラスタ分析(Ward 法・ユークリッド平方距離)を適用した。その結果、武藤(2014)の知見がほぼ再現され、行為焦点尊敬・感情状態と人物焦点尊敬・感情的態度の上位カテゴリー、驚嘆・感心・畏怖・心酔・尊重・敬愛の基本カテゴリーが再現され、それぞれが含む語も武藤(2014)と全て一致した(図 1)。

図 1 尊敬関連語 18 語の階層的意味構造 ($n = 515$)。

注) 図中の数字はクラスター間距離の大きさを示す。デンドログラム末端の尊敬と尊重の 2 語はゴシック体で表示した。

考 察

成人サンプルを対象に尊敬関連感情の階層的意味構造を再検討した結果、武藤(2014)の知見がほぼ再現され、尊敬のプロトタイプは「敬愛」であることが再確認された。また、「尊重」を除く尊敬関連語は概ね感情語として捉えられていることが明らかとなった。よって、武藤(2014)の知見は大学生に特異的なものではなく、日本人全体にもある程度一般化可能であることが示唆された。また、特に「畏怖」の語は現代日本の成人にとって意味理解が難しい可能性も示唆された。

引用文献

- 蔵永瞳・樋口匡貴 (2014). 尊敬の心理学的特徴に関する分析感情心理学研究, 21, 133-142.
- 武藤世良 (2014). 尊敬関連感情概念の構造——日本人大学生の場合—— 心理学研究, 85, 157-167.
- Shaver, P. R., Schwartz, J., Kirson, D., & O' Connor, G. (1987). Emotion knowledge: Further exploration of a prototype approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, 52, 1061-1086.

(Sera MUTO)